

科目No.	WT221	科目名	動物総合管理1				副題	動物と人の関係学－動物から人へのメッセージ				
連携機関名	日本獣医師会	レベル	中級	教室定員	50	配信定員	30	講義日時	木曜日 18:30～20:30		講義場所	早稲田大学・西早稲田キャンパス
科目概要	地球上の野生動物、飼育動物と人との距離は急速に接近し、動物から人へ感染する病気のリスクも高くなって来ている。また、動物と人との関係は、もはや切り離すことのできない相互依存関係になってきており、動物に対する正確な知識の重要性が高くなってきた。さらに、現代社会では伴侶動物の存在意義が高くなってきている。これらの諸問題について獣医学の視点から受講者と一緒に考える。											

科目構成	No.	講義名	講義概要	講義日	教室	講師名	所属
共通感染症	1	共通感染症概論	感染症の原因は主として、細菌、リケッチア、ウイルス、原虫、プリオンがある。これらの病原微生物の発育形態を概説し、人と動物の共通感染症の概要について紹介する。	9月29日	53号館 204室	白井 淳資	東京農工大学
	2	インフルエンザとBSE	近年世界中で流行して問題になった鳥インフルエンザ(ウイルス病)とBSE(プリオン病)の病原体とその病気について解説する。	10月6日			
	3	伴侶動物における感染症対策	動物の飼育スタイルの変化から、ヒトとの親密さが増しているイヌ、ネコ等について、感染症から動物とヒトを守るための対策につ解説する	10月13日		青木 博史	日本獣医生命科学大学
	4	細菌以外の病原体	リケッチアおよびクラミジアによって起る動物と人の共通感染症について紹介する。	10月20日		落合 由嗣	
	5	人獣共通感染症について知る	社会人として知っておいて欲しいズーノーシス(人獣共通感染症)を、人の健康に関わる「動物由来感染症」の視点から解説し、国や自治体における公衆衛生の現場を紹介する。	10月27日		井上 智	国立感染症研究所
	6	細菌が原因となるズーノーシス	細菌が原因となる家畜や伴侶動物のズーノーシスについて、その対策に重点をおき紹介する。	11月10日		片岡 康	日本獣医生命科学大学
動物と人の関係	7	動物と残留薬物	安全性の観点から食用動物の飼育に用いられている薬物と残留薬物について解説する。	11月17日		下田 実	東京農工大学
	8	動物の存在と心の健康教育	動物を飼う事で「人の心」はどう変わるのか、また、学校飼育動物を通して子供達は何を学ぶかを解説する。	11月24日			
	9	動物介在活動および療法	人の一部の病気の治療には動物を介在させることで効果が見られることがあり、アニマルセラピーとして認知されている。このアニマルセラピーについて紹介する。	12月1日		水越 美奈	日本獣医生命科学大学
	10	動物介在教育	子供が動物との関わりの中で気づき、学ぶ事を中心に近年注目されている動物介在教育について事例を挙げて解説する。	12月8日		的場 美芳子	日本獣医生命科学大学
	11	伴侶動物と豊かな暮らし:英国の取り組みと日本の課題	伴侶動物とよりよい関係を築くための英国における取り組みを、実際の体験をもとに、犬の行動学を中心に解説し、日本との違いや今後日本が取り組むべき課題を紹介する。	12月15日		藤井 仁美	獣医師
	12	野生動物と人間社会	人間活動の拡大によって動物の生息圏が狭められつつあり、野生動物と人の生活圏の調和をどのようにとるか重要な課題となってきている。野生動物と人の共存について解説する。	12月22日		羽山 伸一	日本獣医生命科学大学
	13	伴侶動物の病気	伴侶動物の生活習慣病や、日常の症状から病気がどうかをどう判断するか臨床獣医師の立場から紹介し、併せて人への感染の可能性を解説する。	1月12日		岩崎 利郎	東京農工大学
	14	伴侶動物のターミナルケアとペットロス	伴侶動物は飼育条件が良くなり長命になってきているが、その終末を迎えるに当たり必要な構えやペットロスの心理プロセスについて、臨床心理学の立場から解説する。	1月19日		中川 真美	臨床心理士
	15	動物福祉と問題点	家畜、伴侶動物の管理方法、動物実験等に対し、動物福祉の立場から社会的に問題にされる時代となってきた。この問題について歴史的背景と、世界の現状、問題点を紹介する。	1月26日		神田 尚俊	東京農工大学